

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】平成25年12月5日(2013.12.5)

【公表番号】特表2013-510734(P2013-510734A)

【公表日】平成25年3月28日(2013.3.28)

【年通号数】公開・登録公報2013-015

【出願番号】特願2012-538095(P2012-538095)

【国際特許分類】

B 2 9 C 59/04 (2006.01)

C 0 8 J 5/18 (2006.01)

C 0 8 L 101/16 (2006.01)

B 2 9 C 33/58 (2006.01)

B 2 9 C 47/14 (2006.01)

B 2 9 C 47/88 (2006.01)

B 2 9 K 1/00 (2006.01)

B 2 9 K 67/00 (2006.01)

B 2 9 L 7/00 (2006.01)

【F I】

B 2 9 C 59/04 Z

C 0 8 J 5/18

C 0 8 L 101/16

B 2 9 C 33/58

B 2 9 C 47/14

B 2 9 C 47/88 Z

B 2 9 K 1:00

B 2 9 K 67:00

B 2 9 L 7:00

【手続補正書】

【提出日】平成25年10月17日(2013.10.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ポリラクチドフィルムの形成方法であって、

(a) クエンチロールの表面と剥離剤コーティングを備える処理されたツール表面を提供する工程であって、前記処理されたツール表面が、ポリラクチドのガラス転移温度付近又はそれ以上の所定の温度である、工程と、

(b) 溶解ポリラクチド組成物を前記処理されたツール表面上に押出してポリラクチドフィルムを作製する工程であって、前記フィルムが少なくとも部分的に結晶質であり、前記溶解ポリラクチド組成物を前記所定の温度で前記処理されたツール表面に曝すことにより、前記ポリラクチドフィルムの結晶化度が高まる、工程と、

(c) 前記ポリラクチドフィルムを前記処理されたツール表面から取り外す工程と、を含む、方法。

【請求項2】

前記剥離剤コーティングが、フッ素化学化ベンゾトリアゾール、フッ素化ホスホン酸、

及びこれらの組み合わせからなる群から選択される、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記処理されたツール表面がテキスチャ化され、前記処理されたツール表面のテキスチャを前記ポリラクチドフィルムに移転できる条件下で、前記溶融ポリラクチド組成物を前記処理されたツール表面に適用し、前記フィルムの少なくとも片面上につや消し仕上げを提供する、請求項 1 または 2 に記載の方法。